

2009年6月5日

会員・関係 各位



特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL：087 843 9877（川井）

FAX：087 816 8335（＂）

ホームページ <http://khj-olive.com/>

NPO 法人設立1周年記念

ひきこもり講演会ご案内（チラシ参照）

このたび香川県共同募金会から助成を受け、NPO 法人設立1周年記念 ひきこもり講演会を来る6月21日（日）香川県社会福祉総合センターにおいて開催することになりました。

【一部講演】は「訪問型相談と支援」を続けて と題して、さが若者サポートステーション 総括コーディネーターで NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス（SSF） 代表理事の谷口仁史氏に講演をお願い致しました。谷口仁史氏は学生時代からボランティアで不登校、ニートへの訪問支援に取り組んでいて、訪問支援に関しては、平成21年3月末日現在で約3,200件に携わってきております。

地域若者サポートステーションは厚生労働省の委託事業として平成20年度は全国77か所に設置され21年度は92か所に拡大予定されています。

谷口氏をご紹介いただいた大分県の若者支援の会の代表の方も「夫々の若者に合ったきめ細かい対応は普通ではなかなかできないだろう」、「体がよく持つと思う」と感心されていました。地域によって、また委託された団体、事業所、そこに携わる人によって、サポートを受ける側にとっては、同じサポートステーションでもずいぶん差があると感じました。

また、地域における若者支援に当たっては、(1)すべての若者に対応する、(2)一人の人があらゆる悩みに答える、(3)アウトリーチ（訪問支援）を行う、(4)ネットワークを構築する、(5)早期に対応する「地域における若者支援5原則」（2007年5月「再チャレンジ推進会議」大臣指示）が重要であり、地域若者サポートステーション事業は、この5原則を基本理念として、事業運営に当たっています。（厚生労働省：政策レポート（地域若者サポートステーション事業について））そして、関係機関とのネットワークの構築や「職親制度」等、社会的受け皿の創出、「コネクションサービス」（社会的孤立・排除を生まない支援体制）の確立を目指し、どのような取り組みを実際にされているのかなど、今後の我が子の生き方に一つでもヒントを得ることが出来ればと願っています。

【二部講演】は 動き出す！「国の引きこもり関連諸施策」と題して、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）代表 奥山雅久氏の講演となっています。本部発行の機関紙「旅立ち」第50号にも掲載されていますように、ニートや自宅に引きこもる青少年が自立できるよう官民が連携して支援していく枠組みを定めた「青少年総合対策推進法案」(3月7日産経新聞他)、「引きこもりガイドライン案」(暫定版)などについてお話して頂き、それらを全国の家族会、本部がどのように支援、推進活動されているのかなどお話して頂ければ、オリーブの会の今後の活動の参考にもなるのではないかと考えています。

不登校、ニート、ひきこもり問題を抱えて苦しんでいる方、一歩踏み出そうとしている方、支援をされている方、勉強をされている方など、ご参加をお待ち申し上げます。



【年会費払込のお願い】

会費の払込みは、郵便振替

口座記号番号 01610-1-130022

加入者名 特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

正会員 個人 1口 3000円 1口以上

賛助会員 個人 1口 2000円 1口以上

(理解ある知り合いの方などに、支援の呼びかけをお願いいたします)

【今後の月例会】

7月26日(日)	香川県社会福祉総合センター	13:30~16:30
8月23日(日)	香川県社会福祉総合センター	13:30~16:30

【居場所活動予定】

6月6日(土)	運営委員会	(13:30~16:00)
6月13日(土)	松田先生 個人カウンセリング	(9:00~13:00)
6月7日(日)	13日(土) ポパイの会	(13:30~16:00)
	21日(日) "	(10:00~12:00)
6月27日(土)	松田先生 家族相談	(9:00~12:00)

【前回の月例会より】

講演 社会への一歩は若者の「居場所」から! (抜粋概要)

(ひきこもり回復への学習会と居場所の大切さ)

講師：NPO法人KHJ千葉なの花会理事長

日本心理学会認定心理士 藤江幹子氏

自分の中にある原風景と生き方 私は愛媛の西予市三瓶町みかんの本場地の生まれ

で、温暖な気候でのんびり育っていて、水も豊富だし、性格はのんびり、穏やかです。

この年になってよく感じるが四国で生まれたこと、自分の中に原風景としてあるものごとでもいい。私たち心理に関わっていると、自分自身の内面と向き合うことが多いので、そんな中から出てくるものが、四国の土地から自分の中に栄養として頂いたものがたくさんあるなあと、この年になって感じる。それまではあまり感じなかったが、最近しみじみと感ずることがある。

四国全体がお遍路さんの地場であり、私の親も周りの人もそうでしたが、ある程度の年齢になると八十八か所巡りをする。祈りながらいろんなことを考え感じていく。癒されていく。小さいときからお遍路さんが家にやってきて、子どもの頃はお遍路さんの白装束が何か恐い感じであった。神に近い人かなあと私たちと隔てた所にいる感じで、丁寧にお客さんとして接していた。みんなそうしていた。そういう中で育って丁寧にもてなすのが自然に身についている。喜んでもてなすのに、四国の神に近い磁石のようなものが動いている。そういう中で育ったことが、自分の生き方につながっているなと感じたりしている。四国ってすばらしいところだなとしみじみ感じている。

日常は東京にあるカウンセリング研究所でカウンセラーとして、またスクールカウンセラーとしてやっており、地元の千葉県ではボランティアとしてKHJな花会の理事長として関わっていて、居場所の方も月3回行っており、一番はみんなに元気になって欲しい、親も子ども元気になって欲しいと希望におきながら関わらせて頂いております。

私たちの会は年会費を払われた会員の方200名くらい、見えた方400名くらい、千葉県もベッドタウンで人口も多いので、居場所も多く来ていて、改めてみると177名で男性119名、女性58名でした。

不登校の子の集まり場所がないからといって、関わっている先生が連れてこられたりして13歳から43歳までの人たちがいて、大体20から30名の若者が集まって来てひとクラスの学校のように大勢です。延べ数が700名、5年目になりますが居場所でもって復活していく、結婚した子が3名、免許取得した子が7名、復学、就職した子が8名います。バイトが24名、もともとバイトしながら居場所を利用した子がプラス10名、就労中が6名、就労正社員1名 計59名、改めて元気になったなあと思いました。

1、2回で終わった子も70名います。

居場所に来ることが出来たきっかけ 親が会員であった。親御さんが子どもと会話できていなくても、資料としてその辺にあったら子どもがとっていったりして、そんなところから、つながったりすることがある。親と関係が出来ていて、そろそろ行こうかなあと、家で退屈したなあとという時につながったりする。それから保健所、病院、知人からの紹介、チラシやネット、最近目立つのはネットで調べてやってくる子がいる。

ネットにつながって東京、神奈川、埼玉、茨城から来たり、いろんなところからやって来ます。友達同士や、別の居場所で知り合ってこんな場所があるよといって来たり、ある程度元気でいい子たちで声を掛け合って集まって来ます。

動機が一番は 自分を変えたかった。今の生活を変えたかった、自分を前向きに考えていきたくった主体的な気持ちで、同世代の人と話せたことは自信になる、自分が変わったのは心が広がったから、対人的な不安が少しなおった。

全体として感じることは 自分が少し良くなった、友達への目が変わった、人との交流のなかで今までいい体験をしてこなかった、人に優しくされて心が解れた、居場所の子に影響されてバイトにトライできた。

子どもたちは親に対してどう感じているか 居場所に来ている元気ない子たちが答えてくれたのは、理解してくれていると感じている、その理由はと聞くと、信頼してくれている、認めてくれている、いつでもそばにいて受け入れてくれるから、親が学習会や私の病院に一緒に行って理解を示してくれるから、過保護でもなく、うるさいことも言わないが、でも見捨てない、私のことを考えてくれるようになった、まあまあというのがありますが、それはちゃんと働けとは言わない、長年の付き合いでコミュニケーションは出来るから、自分のことをひきこもっているからと責めたりはしない、学習会に行くと少し親が変わった、

望むことは プレッシャーをかけるな、私の気持ちや体調について聞いて欲しい、子どもの立場になって同じ目線になって考えて欲しい、いろいろ気を使って欲しい、

親は子どもがなのはな会にきていることに賛同しているか。父は理解なし、精神病を患った息子は専門医が診るのがベストだとお考えのようだ、と批判的なことも言っていた。

こんな言葉の中から子どもが元気になっていくのには、親としてどんな関わりをすれば良いのかが見えてくる。

ある程度、元気になってきているからこそ、こうやって感じたものを伝えてくれているわけです。そこまでいかない方は自分の心がどこにあるのかも分からない、自分の気持ちが分からない、そして無感動、無関心、無表情、そういう感覚、状況から始まる。そして少しずつ変化していきます。その変化は親の理解にかかっていると感じています。

私たちは親の会なので、親、親と言いますが、親なくして、親と関係なく、動いている方もいっぱいいます。私たちは親の会だから、お父さんお母さんが勉強しながら関わってもらっている会なのよ、と呼びかけながら言っている。

お父さん、お母さんに来て頂くように呼びかけることは出来るんだけど、どうかなと声かけながら、いいですよという子もいますし、電話しないでくださいという子もいて、居場所の中で本音がでたり、ひきこもりって親子の関係がねじれているのよね、なので声かけられないが、お父さん、お母さんに分かってもらおうと、とても楽だよと、元気になっていくのに近道だよと言いながらつながることもあるし、つながらないことも多い。

ネットでくる方は一人で何とかやろうとしている。親の会員だけならもっと簡単だけど、

難しさがある。ある程度共通理解のなかでやっているが、広く一般にお声掛けしているので、そういう難しさも生じてきます。

居場所の情報発信をどのようにしているか 会のHP、行政のHPにも流れるようになっていて、NPO法人になって信用、実績をかわれたと思っている。病院関係ももちろん保健所からも来ますし、病院の方でも勧めて頂いている。またいろんなお便りを新聞社に発信している。ボランティア団体のほうにも置かせて頂いている。

千葉県の中核支援センターが県に14箇所あり、訪問サポートもしてくれる。ひきこもり、不登校、介護などしている。そことつなぎながらサポートしている。やることがたくさんあって大変だなあと思うが、地域に密着したサポートが出来るようにということで設けられたが、なかなかそこが難しい。特に心に関する問題は地域に結びつきにくかったりする。ひきこもりの方でも地元ではなんだからと遠くの会に行かれたりする方もいる。世間の目というものがあるって遠くのほうがいいと、なかなか地元のそういうのが機能していかないのかなと感じている。

新聞社のフリースペース(居場所)の取材から感じたこと 三月にフリースペースの取材で某新聞社から記者が居場所に取材に来られたが、社会的にこのように困っている人がいたり、こういう人がいるんだよと情報発信するには社会的な意味では、大きな意味があったのかも知れないが、居場所を取り上げるという意味では少し違っているし、本人の偏った面だけ取り上げられているなあと感じた。本人は結構楽しく元気になっているので、孤独な部分だけ焦点当てられて、新聞記者の方も文句を言われたと言っていた。取材しないで居場所で遊んで生の姿を感じてください、と条件をつけながら、やりました。すると若者が、良いですね、いろんな職業の人が居場所に来て、こうして話せるのもいいなあって、そんなひとつの社会体験がおこって、またいろんな体験を重ねていく。

居場所(中間施設)のなかで人間関係のやりなおし 居場所に来ている子は元気が高いので、少し違和感を感じるかも分からない。長く来ている子が新しい子にサポートしてくれると一番いいのですが。

居場所の中で人間関係のやり直しをしている。人間関係は親子の人間関係から始まりまずから、親子の人間関係がうまく修復出来ていないと、他人との関係はうまく出来なはずね。同じ状況になったとき、そこがでてきます。

そんなことをしながら、ずいぶん変わってきました。親子の関係も変わってきました。周囲の人を不安にさせないようにしようと一人で戦い、自分自身をコントロールできなくなってしまう。自分の輝きをかくしてしまった。理解の仕方はいろいろあると思うが、親が一番の理解者でなければ生きる勇気がなくなる。親がカウンセラーでもない、スタッフでもない。

一人でも理解者があればそれはすばらしいことなんだけれども親が一番なんだよ、それが生きる勇気になるんだよ、と伝えてくれています。

ある程度語れるようになった子は、このように語ってくれますので、子どもはこんな風に考えているんだなあというのが良く分かってきますね。

なの花会でボランティアでやっている会であっても、居場所という中間施設ですけど、効果というのはかなりだなと感じています。

限界の中であっても、ないよりはあった方がいいと、効果を出しているなと感じています。

中間施設もいろいろありますが、職業訓練のような形で若者自立塾も共同生活しながらいろんな技術を身につける、若者サポートステーションもそうですね。そこへ行く子もいますね。行ってみて自分は今これじゃないんだ、と居場所に来る子もいます。

何かひとつの技術を身につけても、人との関係がうまく出来ないと社会で生きていけないですよ。職業訓練とかはそうじゃないなあとは私を感じています。中間施設で一番大事なのは居場所、人と交流して自信をつけていくことで社会に出てみようかなあ、と思えたり、ちょっと手に技術をつけたいなあと思うときにそういうところが役立っていく。

ひきこもりの子はなぜひきこもっているのか？ ひとりひとり原因はありますが、エネルギーダウンなんです。マイナス状態だから動けないんですね。まず元気をつけるには何をすればいいか？楽しいこといっぱいしないと元気がつかない。

居場所のなかで楽しいことをして元気になれば、自然と社会へ向かう。自分の技術が伴わなくても、ゆっくりと親子の関係ができると等身大の自分でいられる、夢はひきこもりから脱出したら、お父さんみたいにエリートになりたいんだとかなり高いところなんです。

Q：会員の子どもで居場所へ出てくる子が少ない。

A：子どもが動くと親がストップする。子どもが動かないと親が動くしかない。

居場所へきている親の会の子どもさんは半分いないかもしれない。

月例会の三本柱 月例会は三本柱でやっています。**精神科医シリーズ・体験者シリーズ・行政関係機関シリーズ** とバランスをとってやっています。

精神科医をおよびすることで、ひきこもりのことを知らない、分からない先生がいっぱいいるわけです。いろんな先生に理解をして欲しいという願いを込めて、およびしています。

逆に病院からも、こんなところへ行ってみたらと紹介してくれます。心の健康センターとか県の精神保健福祉センターとかの先生にも来て頂きながら、**行政にも理解して少し意識をして頂く**ということで、**願いを込めて先生方にもきて頂いています。**

体験者は本人の体験だったり、親の体験だったり、居場所の若者もいっぱいいて、マイクを持って喜びに浸る子もいたりして、**話そうと思うことを自分がまとめることにより、結構整理がついたりして、いい体験が出来ましたと殆どの若者が言ってくれます。**

6, 70人のお父さん、お母さんがいて、若者が10人くらいいるなかで、話すということは大変なことですが30分くらい話してくれます。

横のつながりを持つということも必要で、ひきこもりについてこの先生の話が聞きたいなという先生をおよびしたりしています。行政とのネットワークを利用しているが 県会

議員さんなんかを味方につけると、かなり有利である。行政側はとんできてくれる、そして一生懸命考えてくれるんです。でも、ガッカリすることに、今度支援センターができようかと一応そういう方向にきていますが、前の課長さんがそこはしっかりやりたいと、ここでやらないかとおっしゃって頂いたんですけど、4月フタをあけるといらっしゃらない、全部新しい方に変わっていて、またあきらめないで、顔つなぎにいつてきました。ただ、知らない人が来たというのではなく、前からの連携はとって頂いているなど、それはうれしく思いました。**とりあえず声を上げなければ何も進まない、その小さなところからするしかない。**

助成金について 役員で助成金の担当は決めている。助成金はもらっていない。みんなボランティアでやっているの、無理をし過ぎるといいことにはならない、**基本は、まず自分の家族ということにしている、自分の家族を一番にしながら、プラスの部分で越えていく**ということで、**あまり無理をしないというスタンスが大事だと思っています。**行政は当てにしたいけど当てに出来ないなあ。でも声をかけなければ始まらないというところで、やっています。

大分県は活発に受けられていて、どうすればこういうようになるんだろうと関係がとれるんだろうと。でも少しずつ理解がある人が増えていくので、精神科の先生なんかはいいと思います。ただ一つ心配なことは、**元気になるのは薬じゃない**、精神科の先生をおよびすることで、薬が必要のない人まで病院へ駆け込むこと、それは危惧している。**会で紹介することは、大きな意味があって、それがいい方向ならいいのだけれど、悪い方向に響いていくといけないので、たとえば関係機関の方をお呼びして、この人が信頼できるかどうか心配したりすることもある。**

お寺を立ち上げた住職、元ひきこもりの方でテレビ、新聞にでた千葉の方でその方にも再来月から来て頂くことになっている、宗教関係となるとえっと思うので、役員が二人お会いして大丈夫ということで、**およびする人は私たちが信頼してるということも発信しているわけですから、来て頂くのは慎重ですね。**

回復に向けてのプログラム 回復にむけてのプログラムは、私たちが一番大事にしているものでもあるのですが、ここでは要点だけ簡単にふれさせていただきます。

学習会の基本の考えがあって、**はじめて親子の関係も成り立ち、本人が元気になっていく一番の近道だなあと私自身は感じています。**

いろんな心理療法がありますが、ひきこもりをずっと手がけてきて、一番この方法が回復につながったなと分かっているんです。

最初は不登校もひきこもりもどうすればいいかわからない、わからない状況のなかでやってきた結果、今いっぱい膨れ上がっている、そのやり方が見えてきたわけです。

それをやっている、時間のかかるやりかたですが、それをやっていると、必ず結果をだしているというものなんですね。職場でもやっています。SCS 研究所というところですが、そこ

から派遣して静岡、神奈川、本部も始まりました。千葉、東京楽の会でやっております。定期的に月2回やっています。

(1) 大切な親の姿勢 親の心が安定するということ、子どものいろんな動きや、言動に心を動かされていると、子どもはもっとそれ以上に心が動くわけです。不安定になるんですね。子どもが元気になるには、家の中で安心して引きこもれることが一番、そしてら不安定にさせないようにしてあげないといけない。親の心が安定することがとても大事。今までの対応では元気にならなかった。では今までの対応では元気にならなかったのでは、変えていく必要があるのではないかと、自分の性格を変えるというのではなく、関わり方を変える、考え方を変える、価値観を広げる、具体的に分かりやすく言うと、世間体が今まで気になったけれど、世間体はいいじゃないか、単純なことでいいんです。子どもを何とかさせようと思ったけど、そうじゃない、まず自分から何か変えてみようとか、取敢えず価値観を変えてみよう、それからあきらめない、時間が必要です。1、2年では回復しません。ただ、やってるだけ、見守っているだけでは10年経っても20年経っても変わらないどころか、時間の経過のなかでいろんな病状を呈してしまったり、悪化の方向に行ってしまう。

継続した勉強が大切と伝えながら言っております。なの花会が始まってから5年、東京が一番長くて8年近く、そこからのつなぎで千葉へやってきた人がいますので、いま千葉の長い人で6年、勉強し続けています。お持ちしたカリキュラムはひとつのワンクールで2年、4クールでひとつを全部やるのに2年間、その間に子どもは少しずつ変わってきます。親も根気が必要です。

(2) 親の対応の3つの柱 A. 親の無条件の肯定的関心 = 全肯定 言葉で示すものではなくて、感覚の世界です。・話を聴く、肯定的に受け止める、ごみがあるのはこの子にとってわけがあるんだろうなあ、人って全部受け入れられると変わるように出来ているんですね。そのようにつくられている。それも積極的に関心を持つ、ただ受け止めているだけでは、なかなか届いていき難い。今日この日、この時間というのは、自分の子に元気になって欲しいな、自分の子が幸せになって欲しいな、と子どものことだけで来ていますよね。ここではある程度100%なんです。という時を1日5分でも10分でも持てれば変わってきます。普段は頭の隅っこにあるが、流されている。

イメージとしては200%くらいの気持ちで。

B. 自己表現ができるようにする。そのためには親子のコミュニケーションの復活なんです、そんな簡単に復活しません。

まずは声かけから、し続けることが大事、何も言わないでやってることでストレスになる。無視されるが、快話、心地よい会話、ノーを言ったとき否定しない、反抗期をしない人たちなので、育てなおしをしている作業、反抗期をしっかりとやり、その先に進んでいくことで、社会のなかで少しでも元気になっていくポイントになるわけですね。

本音が言えるようになる。ぐちは宝物、いっぱいためたものは大きなものになっていく。それが病的なものになっていく、病気を生んだりする、気持ちにしまったものは出すことが必要。今引きこもっている人はマイナスのものがいっぱい詰まっていた動けない状態です。マイナスをどんどん出せばいいわけですね。あのときいやな思いをしたんだよとか、とても悔しかったよとか、そんなこと言うのにはなかなか時間がかかります。それが言えるようになるには親の準備がなければだめ、本人がどんなことをいっても聞いてあげること、聞いてあげるとは元気になっていくのに必要です。抱えていたものの解放になってくる、抱えていたものが重石になっている。無関心、無感動、無感覚という世界は、氷よりももっと氷河みたいな心と思って下さい。氷河みたいなものが解けるには、かなりしっかり受けとめて肯定していかないと、全肯定が心の中に届いていかないと、それが解けていかないので根気よくやることが大事である。融けてくると中身がでてくる。時間が必要。子どもの育てなおしは家族の再生でもある。

C. 他人とのかかわりの工夫 第三者は専門家がベストである、親子でボランティアしたり、その子が今興味をもっているのは何なのかなあと、トラブッタ時に他人を入れるとよい、その場合親とつながってないとそこへとびこめない、事前に準備が必要、本人でなくとも親がつながりながらいるということ、病院もそうです、この子は医療が必要だなと思うとき、合いそうな先生を見つけておく、いろんな情報を得て親だけがいていけばいい。

(3) 社会への入り口 親のフォローが大切、話せる関係を作っておく、一番大事、でもそこが一番難しいと思う。本人が好きなことなど話す、時間と空間を共有することが大事、親とつながっている、親が自分を分かるうとしてくれている、親と一緒にいるという感じをもってくれる、そういうところから少しずつはってきます。すると変わってきます。少しずつ。

(4) 回復途中で起きてくる様々な現象 暴言がでてくる、土下座を強制、大事なことなんだと思って土下座する。いきなり暴力になる、赤ちゃんがえり、お母さんがしっかり甘やかしてあげる、

(5) 回復の目標をどこにおくか

あー、生まれてきてよかった、と子どもが思ってくれる。

以上

(文責 川井)



千代田区 皇居東御苑